

多分野連携プログラム

「人間諸科学における進化心理学の位置」

「子どもの育ちを支える協同関係の構築にむけて」共催

優生思想と教育の歴史 —20世紀転換期イギリスを中心に—

人間の生は、飽くことなき進歩や発展への欲望によって彩られてきた側面を持つ。それは制度や技術へと向けられるのみならず、時に人間それ自身へと向けられてもきた。前世紀が示した優生学とは、チャールズ・ダーウィンの自然淘汰理論すらこの欲望に飲みこみつつ、「より良い」ということを盲目的に、あるいはあまりに政治的に、人間へと振り向けてきたそうしたまなざしそのものだったと言えよう。

本研究会では、いかにして「より良い」人間(の生)が測定・規定され、形成されようとしてきたのか（そして時にそれを裏切る試みがなされてきたのか）、そのプロセスを問うために、松本由起子氏と草野舞氏から話題提供を頂くこととする。松本氏からは「小学教員から精神分析家へ：エラ・F・シャープの階層横断と優生思想を乗り越える<演技>」、草野氏からは、「20世紀初頭イギリスにおける優生思想の展開と子ども－優生教育教会の活動に着目して－」と題したご発表を頂くことで、優生学と人間の生そのものについて、共に考える場をひらくことを目指す。

プログラム

発表① 16:30~17:10

松本由起子（北海道医療大学）

「小学教員から精神分析家へ」

：エラ・F・シャープの階層横断と優生思想を乗り越える<演技>」

発表② 17:10~17:50

草野舞（九州大学大学院人間環境学府）

「20世紀初頭イギリスにおける優生思想の展開と子ども

－優生教育教会の活動に着目して－」

全体討議 17:50~18:30

日 時

平成28年 11/15 (火) 16:30 ~18:30

会 場

九州大学箱崎文系キャンパス 教育学部棟 1F 会議

連絡先

九州大学貝塚地区事務部教務課学生第二係 tel: 092-642-3105
E-mail: kakgakusei2@jimu.kyushu-u.ac.jp